

帝人株式会社 ■ 広報・IR室

●東京本社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館 TEL.03-3506-4055 FAX.03-3506-4150
●大阪本社 〒541-8587 大阪市中央区南本町1丁目6番7号 TEL.06-6268-2763 FAX.06-6268-3010
●URL <http://www.teijin.co.jp>

2010年6月28日

航空機分野に向けた戦略的な取り組み強化について

東邦テナックス株式会社

東邦テナックス株式会社（本社：東京都千代田区、社長：三嶋 孝司）は、炭素繊維事業の事業拡大を目指す成長戦略の一環として、今後さらに高成長が見込まれる航空機用途を事業展開の最重要分野と位置づけ、戦略的に取り組みを強化していきます。

エアバス社をはじめとする航空機メーカーへの供給実績、およびその間に培ってきた高い技術力は当社の強みであり、これを基盤として、先ごろエアバス社を傘下に有するEADS社、およびカナダのボンバルディア・エアロスペース社との長期供給契約を締結しました。今後、さらなる取り組み強化により、当分野における競争力の確保、および事業拡大を図っていきます。

詳細は以下のとおりです。

1. 背景・経緯

- (1) 元来、航空機用の主要材料は鉄やアルミニウムなどの金属類でしたが、コストダウンや環境配慮に向けた軽量化ニーズから、約40年前から炭素繊維複合材料が採用されるようになりました。（B747 二次構造材への採用 = 1970年、A320 一次構造材への採用 = 1987年）
- (2) 特に近年は、環境問題への対応や航空会社の経営効率化の観点から、機体の軽量化に向けた炭素繊維複合材料のニーズが急速に高まっています。
- (3) 航空機メーカーの採用に当たっての認定作業は、炭素繊維の製造ライン認定から始まり、原糸、プリプレグ（炭素繊維織物に樹脂を含浸させたシート材）、コンポジット（複合材料）の全ての段階で厳しく実施されており、参入には高い技術力と万全な供給体制の構築が必要とされます。
- (4) 東邦テナックスは、1980年代の半ばから、航空機向けに炭素繊維の供給を開始し、以来、エアバス社をはじめとする航空機メーカー各社、一次・二次構造材メーカー各社から幅広く認定を得て、主として原糸を供給してきました。
- (5) 航空機用途は、現在の年間5,000トンの需要から、2015年には1万トン超、2025年には約2万トンと、今後ますます高成長が見込まれる市場です。
- (6) 東邦テナックスのこれまでの供給実績や高い技術力により、今後さらなる事業拡大が期待できることから、同分野を事業展開の最重要分野と位置づけ、戦略的に取り組みを強化していくこととしました。

2. 戦略的な取り組み強化策

今後ますます高成長が見込まれる航空機分野を最重要分野と位置づけ、市場における競争激化や航空機メーカーから要求水準向上などの中、以下の戦略的な取り組みにより、同分野における優位なポジションを継続的に確保していきます。

(1) プリプレグビジネスの本格展開

- 東邦テナックスは、従来、主として原系をプリプレガーに販売するビジネスモデルを採ってきましたが、今後は原系販売にとどまらず、プリプレグビジネスに本格的に進出します。
- これに伴い、これまで培ってきたプリプレグ製造技術をベースとして、高機能化・高品質化・高効率化を図るべく精力的に技術開発を推進します。また、需要量に応じ、生産拠点の新設も視野に置いています。
- これにより自社製原系の確実な採用、および付加価値増加による取引額拡大が見込まれ、現在は取引額全体における原系販売の割合が約80%を占めていますが、5~10年後には、プリプレグやコンポジットの売上が総売上額の過半となることを目指します。

(2) 航空機メーカーとの直接契約強化

- 航空機分野におけるサプライチェーンは、「原系メーカー　プリプレガー　部品メーカー　航空機メーカー」というのが一般的で、契約は主として直接の販売先との間で締結していました。
- こうした中、最近では航空機メーカーからのソリューション提供ニーズの高まりとともに、従来のプリプレガーが自社製原系の使用を拡大する動きもあり、供給取引の安定確保の観点から、航空機メーカーとの直接契約の拡大・強化が必須となっています。
- 先ごろエアバス社を傘下に有するEADS社、およびカナダのボンバルディア・エアロスペース社との長期供給契約を締結しました。これを契機として、今後、世界の航空機メーカー各社との直接契約拡大を強力に推進していきます。

(3) 航空機分野に向けた組織体制の強化

- 製品販売については、従来、地域別(日本・欧州・米国)製品別(原系・プリプレグ・コンポジット)の体制で展開してきましたが、本年4月より航空機分野向けの専任販売組織「航空機営業部」を新設しました。
- これに伴い、航空機分野の営業要員をグローバルで倍増し、ユーザーの幅広い要望に応え、原系、織物、プリプレグ、コンポジット製品など、航空機に関わる様々な製品・サービスを提供していく専任体制を整えました。
- また、欧州および米国の事業拠点との連携をさらに強化し、東邦テナックス主導の下、地域別・顧客別体制で航空機分野への対応力強化を図っていきます。

(4) 航空機分野に向けた技術開発力の強化

- 技術開発については、従来、東邦テナックスグループ内で進めており、具体的には三島事業所およびドイツの研究所において取り組んできましたが、今後はさらに帝人グループ各社との連携を強化していきます。
- 今後、帝人グループの総力を上げて、プリプレグの生産性向上および量産技術開発、自動車向け材料および技術の応用などを推進するとともに、次世代航空機に向けたさらに高性能な炭素繊維および樹脂の開発を進めていきます。
- 最近の技術開発の成果としては、次の2材料を開発し、現在、実用化に向けて推進しています。

A 3 5 0 X W B 向けの熱可塑性樹脂 (P E E K) を用いた炭素繊維複合材料
= 技術確認を経て、現在、認定作業を進めています。

A 3 8 0 向けの熱硬化性樹脂 (ベンゾオキサジン) を用いた炭素繊維複合材料
= 技術確認を終了し、現在、認定作業に入るための準備を進めています。

(5) 熱可塑性プリプレグ製造設備の導入

- 近年、航空機の一次構造材料として、耐衝撃性や耐摩耗性に優れる熱可塑性樹脂を用いた複合材料の採用が進んでおり、需要が拡大しています。
- 東邦テナックスおよびドイツの事業拠点では、かねてより研究開発を進めてきましたが、このたびA 3 5 0 X W B 向けに炭素繊維強化熱可塑性樹脂積層板の供給契約を締結したことを受け、欧州拠点である独 Toho Tenax Europe GmbH (オーパ`- プル工場内) に、熱可塑性プリプレグの製造設備を導入することとしました。
- 当設備は、2010年10月に完成、2011年3月に生産開始予定です。

3. 航空機分野における将来展望

- (1) 大航空機メーカーを中心として、さらに積極的にプロモーション活動を展開し、リージョナルジェットやビジネスジェットなどを含め、幅広く炭素繊維材料の採用獲得を図っていきます。
- (2) 炭素繊維の原系販売を拡大することに加え、プリプレグの販売を強化し、付加価値増による売上拡大を図っていきます。
- (3) これにより2025年には、航空機分野における炭素繊維販売量6,000ト、市場シェア30%、売上1,000億円超を目指します。

以 上

【 当件に関するお問合せ先 】

帝人株式会社 広報・IR室 (東京)TEL:03-3506-4055 (大阪)TEL:06-6268-2763